

私たちがキリストの奥義を語れるように、祈ってください。

イザヤ51:1

2014(26)年 週 報

5月18日
第3聖日
3352号

「神のことば」

(Iテサロニケ連続講演第8回)

聖
言

こういうわけで、私たちとしてもまた、絶えず神に感謝しています。あなたがたは、私たちから神の使信のことばを受けたとき、それを人間のことばとしてではなく、事実どおり神のことばとして受け入れてくれたからです。この神のことばは、信じているあなたがたのうちに働いているのです。

(Iテサロニケ2:13)

礼拝の恵みⅧ (ダビデの礼拝)

- 一、賛美と感謝はいけにえに勝る。「私は神の御名を歌をもってほめたたえ、神を感謝をもってあがめます。それは雄牛、角と割れたひずめのある若い雄牛に勝って主に喜ばれるでしょう。」(詩篇六九ノ三〇、三一)
- 二、尊厳と威光の礼拝「尊厳と威光は御前にあり、力と歓喜はみもとにある。国々の民の諸族よ。主にささげよ。栄光と力を主にささげよ。御名の栄光を主にささげよ。ささげ物を携えて、御前に行け。聖なる飾り物を着けて、主にひれ伏せ。・・ほむべきかな。イスラエルの神、主。とこしえから、とこしえまで。」(口歴一六ノ二二六〜二九、三六)
- 三、王の娘の礼拝「娘よ。聞け。心して、耳を傾けよ。あなたの民と、あなたの父に家を忘れよ。そうすれば、あなたの美を慕おう。彼はあなたの夫であるから、彼の前にひれ伏せ。」(詩篇四五ノ一〇、一一)
- 四、御手の羊の礼拝「主は大いなる神であり、全ての神々にまさって、大いなる王である。地の深みは主の御手のうちにあり、山々の頂も主のものである。海は主のもの。主がそれを造られた。陸地も主の御手が造られた。来たれ、私たちは伏し拝み、ひれ伏そう。私たちが造られた方、主の御前に、ひざまずこう。主は、私たちの神。私たちは、その牧場の民、その御手の羊である。」(詩篇九五ノ三〜七)

(A P ギブス礼拝参考)

イエス・キリスト聖成伝道教会・東洋聖書神学院・聖成基督教団

牧師 山本 稔 〒653-0812 兵庫県神戸市長田区長田町1丁目2番6号

電話：FAX (078) 691-1419 郵便口座番号 01170-3-20374

<http://jchec.org/>

minoru_yamamoto@hotmail.co.jp メール m7-inoru@ezweb.ne.jp

二〇一四年五月二一日午前二〇時 礼拝 山本牧師

「四」に相応しく」(テサロニケ連続講演第七回)

「ご自身の御国と栄光とに召してくださる神に相応しく歩むように勧めをなし、慰めを与え、おごそかに命じました。」(テサロニケ 一(二ノ一二))

「あなたがたが知っているように、私たちはいつも、わが子を取り扱う父のように、あなたがたひとりひとりに個人的に勧め、そしてあなたがたを鼓舞し、激励し、さとし、

「神」ご自身のみ国と「キリストの再来後に真の信者が入る」光栄ある祝福に召し入れてくださる神にふさわし生活をするようにさせました。

動機の純潔が大事です。今日は母の日です。昔アメリカの教会学校でジャービスさんと言う先生が十戒の中のあなた方の父母を敬いなさいという御言葉を教えていました。やがて年をとり、年をとり天に召されました。そのことを思い出した子どもたちが記念会にカーネーションをいけました。それを当時のデパート王ワナメーカーが全土に奨励したのです。彼は敬虔なクリスチャンでした。パウロはテサロニケの信者にあるときは母の如く優しく、あるときは父の如く威厳をもって福音を伝えました。かれの心は信者を自分の利益のために考えず、信者の幸福を優先しました。それは主が御再臨されるとき、信者をキリストの花嫁として恥ずかしくないように教へ導きました。なぜなら、花嫁は純潔でなくてはなりません。花婿のみを愛し、貞操を守るのです。そして花婿の心と一つとならねばなりません。花婿の喜ぶことを喜び、悲しむことを悲しむ。花婿と同じ神の国のために喜んで働く者でなければなりません。具体的には礼拝を守り、奉仕に励み、御言葉と祈りと伝道をよるこびとする生活です。

二〇一四年五月一四日午後七時 祈祷会 山本牧師

「金剛石のような額」(エゼキエル連続講演第六回)

「わたしはあなたを、むずかしい外国語を話す民に遣わすのでなく、イスラエルの家に遣わすのだ。あなたを、そのことばを聞いてもわからないような難しい外国語を話す多くの国々の民に、遣わすのでない。もし、これらの民にあなたを遣わすなら、彼らはあなたの言うことを聞くであろう。しかし、イスラエルの家はあなたの言うことを聞こうとはしない。彼らはわたしの言うことをこころとはしないからだ。イスラエルの全家は鉄面皮で、心がかたくなだからだ。見よ。わたしはあなたの顔を、彼らの顔と同じように堅くし、あなたの顔を、彼らの顔と同じように堅くする。わたしはあなたの顔を、火打ち石よりも堅い金剛石のようにする。彼らは反逆の家だから、彼らを恐れるな。彼らの額にひるむな。」(エゼキエル三ノ五(九))

⑩その方は私に仰せられた。「人の子よ。わたしがあなたに告げるすべてのことばを、あなたの心に納め、あなたの耳で聞け。」

⑪さあ、捕囚になつてゐるあなたの民のところへ行つて、彼らに告げよ。彼らが聞いても、聞かなくても「神である主はこう仰せられる。」と彼らに言え。」

もし福音の宣教の重要な部分が御霊の超自然の御わざであるとすれば、私たちの出来る最善のことは祈りである。私たちは伝えようとする人々のかたくなさを知れば知るほど、ますます熱心になるのではないだろうか。鉄面皮で心の頑なな民に遣わされるエゼキエルにとって大切なことは恐れないこと。人を恐れていては主からのメッセージを大胆に語ることはできない。フランシスコは山口城主大内義隆の面前ではばかることなく男色の罪悪を紛糾し、これを犯すものは蕃生にも劣ると断言して

激怒させた。あわや斬首と思われたが、死を少しも恐れないザビエルの態度に城主も驚いた。「全能の神を伝えるのに死を恐れては話にならない。」と言う。もう一つは聞いて聞かなくても主が仰せられることをそのとおりに伝える。説教者はしばしば聴衆の求めに答えようとする。しかし、聴衆の必要を知る事と話して欲しいことは話すのは別。聖書が誤りの無い神の御言葉と信じているなら、聞こうが聞かなくても確信をもって語る。そうとはいっても、説教者は全力を尽くして準備を怠ってはならない。

(「エゼキエル書」鷹取裕成著参考)

第四三回合同召天記念会

六月一日(日)

礼拝 午前一〇時 於・教会礼拝堂

「食事と信仰」(詩篇二三ノ五) 山本牧師

記念会 午後二時 於・教会納骨堂

「自然と信仰」(詩篇一九ノ一) 山本牧師

昼食後午後一時にマイクロバスで納骨堂へ

午後二時に納骨堂駐車場で記念会

マイクロバスで午後三時半に教会へ

(雨天の場合はマイクロバスで納骨堂に行き墓前礼拝をして、教会に帰り、プログラムに添って儀式を行う。)